

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 3 月 30 日

事業所名

放課後等デイサービス ウイズ 鳥栖教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用者の人数によっては狭く感じる場所がありますが、室外と室内を組み合わせながら支援を行っていききたい。
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		利用者の方にはマグネットシートでその日に利用するお友達や職員、スケジュールを示しています。	今後も見やすい様なレイアウトなどを考えて取り組んでいきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		朝礼・昼礼の際に情報の共有をしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している			結果をホームページにて掲載している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は現在実施していない。今後実施を検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内、社外にて研修会を実施している。	外部研修を受講した職員は社内研修でフィードバックを行い、参加できなかった職員と共有できる様にしたい。
適切	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		児童発達支援管理責任者を中心に職員間で共有し、計画の作成を行っています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		事業所で作成しているアセスメントシートを使用している。作成後は個別のファイル保存し、すぐ閲覧する事ができるようにしています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			

な 支 援 の	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	定期で行ったり、新しいもの 等を組み合わせで取り組んで います	

提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		利用者のニーズや近況状況・課題や可能性に応じて個別と集団を組み合わせた計画を作成しています。		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に1回以上行い、その結果に応じて計画書を作成しています。		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参画しています。	機会があれば、他の職員の参加もできればと考えております。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		現在、対象者は利用されていません。対象者の方が利用になれば、連携を取っていきたい。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要と判断した場合聞き取り等を行っています。		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要と判断した場合聞き取り等を行っています。		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要と判断した場合聞き取り等を行っています。 WISC検査結果を参考に支援を進めています。		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		保育所やこども園等の交流はないが、地域の公園等に行った際に一緒に遊ぶことがあります。	今後、ニーズ等に合わせて企画などを行っていききたい。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		機会があれば参加していきたい。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や送迎時に情報共有・共通理解に努めています。		

31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○	家庭や学校での悩み等ご相談があれば、その都度対応させていただきます。	
----	--	---	------------------------------------	--

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用契約時に書面・口頭で説明を行っています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		職員間で情報共有や共通理解、モニタリングを行いながら、計画を作成しています。保護者への説明も丁寧に行う様に心がけています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談があった際にはその都度対応しています。必要場合は持ち帰り、職員間で話し合い対応する様に努めています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者のニーズに合わせて今後検討して行きたいです。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談があった際にはその都度対応しています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報は発行しておりませんが、個別で不定期になっていますが送っております。活動概要や行事予定等は毎月、配布して発信をしています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			・今後も個人情報には細心の注意を払います。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		障害特性に応じたコミュニケーション方法を取り入れています。保護者との情報伝達は電話等だけではなく、連絡帳でのやり取りもしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	地域であるイベント等の見学をさせていただいております。	ニーズに合わせて今後検討して行きたいです。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		職員間では周知しています。しかし、保護者へのお伝えが十分にできていない事もありますので、周知徹底に努めていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に訓練を実施しています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		利用の見学の際や契約を行う際に確認をさせていただいております。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事やおやつ、クッキング等アレルギーの有無を確認しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例集を作成しています。ファイリングを行い、振り替えがいつでもできる様にしています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			